

生活支援体制整備事業

生活支援コーディネーターと
協議体に期待されること

群馬県社会福祉協議会 地域福祉課

✖ 今日のおはなし

● コーディネーター・協議体の目的と役割

● コーディネーターの活動のポイント

● 協議体を活性化するためには



コーディネーター・協議体の 目的と役割

✖ 生活支援コーディネーターについて

配置・設置の単位区域

第1層・・・市町村（指定都市においては行政区、広域連合においては構成市町村）の区域

第2層・・・日常生活圏域（市町村が、その住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備の状況その他の条件を総合的に勘案して定める区域をいう

配置・設置に係る留意点

- 1人の生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）が第1層と第2層を兼務することや複数の第2層を担当することなど、市町村の状況に応じて柔軟な配置が可能である。
- 日常生活圏域の数が1となる市町村においては、第1層と第2層は同一の区域となるが、それぞれに生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を配置する必要はない

生活支援コーディネーターについて

業務の目的



資源開発



ネットワーク構築



ニーズと取組みの
マッチング

❖ 業務の目的について

資源開発 地域にある“強み”や“できること”を活かしながら住民主体の支え合いを育てる

- ・地域に不足する生活支援・介護予防サービスの創出
- ・生活支援・介護予防サービス担い手（ボランティア等を含む。）の養成
- ・元気な高齢者をはじめとする多世代の地域住民が担い手として活動する場の確保 など

ネットワークの構築 人や活動、地域を“つなぐ役割”が求められる

- ・多様な主体を含む関係者間の情報共有
- ・生活支援・介護予防サービス提供主体間の連携の体制づくり など

ニーズと取組のマッチング 住民と関係機関を繋ぎ連携や共創を進める役割を担う

- ・地域の支援ニーズと生活支援・介護予防サービス提供主体の活動をマッチング など

生活支援コーディネーターについて

業務の内容

生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）は、地域住民や多様な主体との対話やネットワークの構築を行うことを通じ、関係者の間で地域の現状や将来像の共有を図るとともに、地域住民や多様な主体ごとの多様な価値判断を尊重しながら地域での共創を推進するため、次のaからeまでに掲げるコーディネート業務を実施する

- a 高齢者の支援ニーズ・関心事や地域住民を含む多様な主体の活動の状況の情報収集及び可視化
- b 地域住民や多様な主体による生活支援・介護予防サービスの企画・立案、実施方法の検討に係る支援
- c 地域住民・多様な主体・市町村の役割（地域住民が主体的に行う内容を含む。）の整理、実施目的の共有のための支援
- d 生活支援・介護予防サービスの担い手（ボランティア等を含む。）の養成、組織化、具体的な活動とのマッチング
- e 支援ニーズと生活支援・介護予防サービスとのマッチング
支援ニーズと生活支援・介護予防サービスの事業化（サービス・活動事業の事業化を含む。）や立ち上げ・継続のためのコーディネート業務を想定しており、生活支援・介護予防サービスの実施主体が、当該サービスの実施
区域において行う個々の高齢者と当該サービスとのマッチングについては、事業の対象外とする。

生活支援コーディネーターについて

配置先及び必要となる員数

生活支援体制整備事業は、法第115条の46第1項に規定する包括的支援事業であること、また、第1層は市町村の区域、第2層は日常生活圏域としていることを踏まえ、当該区域を担当する地域包括支援センターとの連携を図ることを前提としつつ、適切な配置先を選定すること。

また、第1層及び第2層ごとに必要となる人員の員数等は定めていないことから、地域の実情に応じて柔軟な配置が可能であること。

配置・設置に係る留意点

国において統一的に資格要件を定めてはいないが、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）は、地域住民の関心事や地域の多様な活動の状況をよく知る者、地域住民による活動の支援について実績のある者、定年退職をして地域づくりに関心をもつ者、医療・介護・福祉の領域を越えた主体との対話のための知見を有する者等、様々な資質等が求められると考えられ、市町村は事業の目的等に応じたコーディネート業務を適切に実施できる者を選定すること。

また、都道府県又は厚生労働省が実施する研修を修了した者が望ましい。なお、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）に係る研修については、地域医療介護総合確保基金における介護従事者の確保に関する事業の対象としている。

❖ 協議体とは

“ 地域のさまざまな立場の人たちが集まり、
地域について一緒に考える場 ”

多様な主体間の情報共有及び連携・協働を推進することを
目的として設置しています

✖ 協議体について

役割

- a 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の組織的な補完
- b 地域ニーズ、既存の地域資源の把握、情報の可視化の推進
（実態調査の実施や地域資源マップの作成等）
- c 企画、立案、方針策定を行う場（生活支援・介護予防サービスの担い手養成に係る企画等を含む。）
- d 地域づくりにおける意識の統一を図る場
- e 情報交換の場、働きかけの場

設置主体

◎市町村

協議体の設置・運営については、様々な手法によることを可能とするが、市町村は、設置・運営において必要となる事項について予め要綱等において定めるとともに、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）や地域包括支援センターとの連携のもと、地域の関係者のネットワーク化を支援すること。

✖ 協議体について

構 成 員

- 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）
- 行政機関（市町村、地域包括支援センター等）
- 地域運営組織（元気な高齢者をはじめとする多世代の地域住民が担い手として参加する住民主体の活動団体）
- 地域の多様な主体の関係者（NPO、社会福祉法人、社会福祉協議会、地縁組織、協同組合、民間企業、シルバー人材センター、介護サービス施設・事業所、老人クラブ、家政婦（夫）紹介所、商工会、民生委員等）
- 介護保険制度以外の制度における事業（子育て支援等の福祉施策のほか地域振興・活性化等を目的とする事業等）

（２）協議体の設置 地域の多様な主体間の連携・協働を推進し生活支援コーディネーターの活動を支援・補完。

住民主体の
活動団体

地域運営組織

NPO法人

社協・
社会福祉法人

協同組合

民間企業

保険外サービス
等の実施者

等

コーディネーターの 活動のポイント

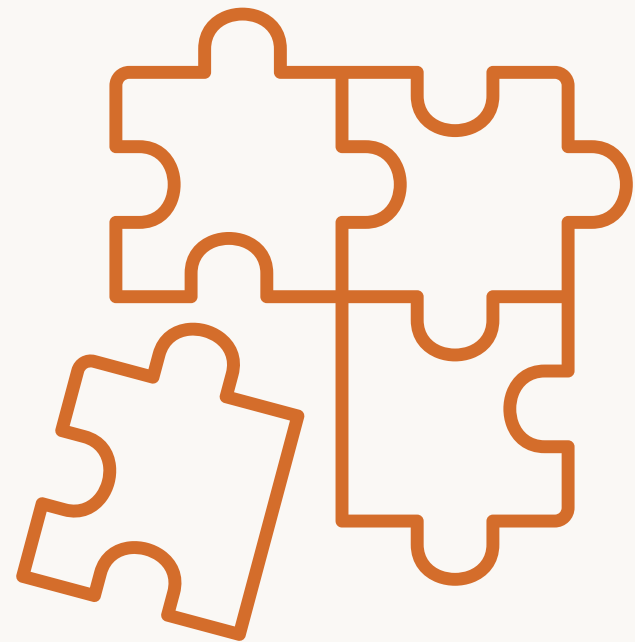
✖ 最大のキーワード

“住民主体”

その人らしく地域で暮らし続けられるように、
地域の支え合いの体制を整えていく事業

✖ 活動のポイント

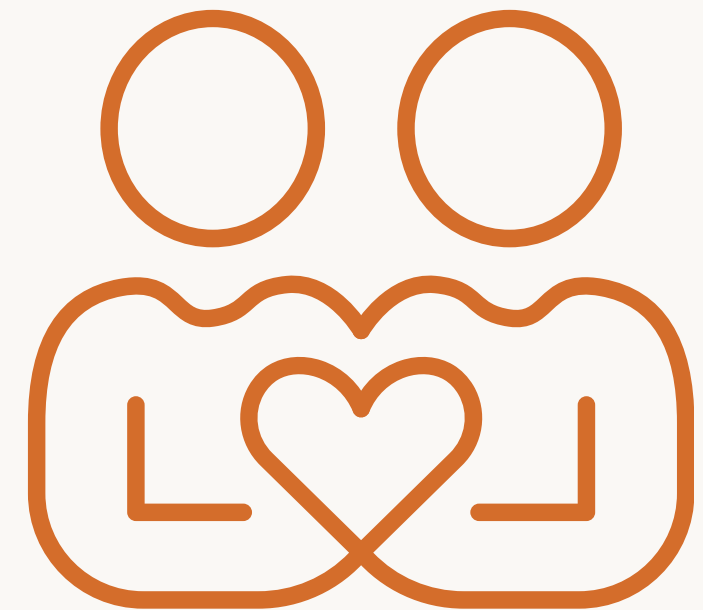
住民の力でできること・地域で支え合えることを大切にしながら



一緒に形にしていく



住民の選択や心構え



地域との関係構築

❖ 生活支援コーディネーターについて

業務の内容

- ①：高齢者の支援ニーズ・関心事や地域住民を含む多様な主体の活動の状況の情報収集及び可視化
- ②：地域住民や多様な主体による生活支援・介護予防サービスの企画・立案、実施方法の検討に係る支援
- ③：地域住民・多様な主体・市町村の役割（地域住民が主体的に行う内容を含む。）の整理、実施目的の共有のための支援
- ④：生活支援・介護予防サービスの担い手（ボランティア等を含む。）の養成、組織化、具体的な活動とのマッチング
- ⑤：支援ニーズと生活支援・介護予防サービスとのマッチング

✖ 協議体について

役割

- ①：生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の組織的な補完
- ②：地域ニーズ、既存の地域資源の把握、情報の可視化の推進
（実態調査の実施や地域資源マップの作成等）
- ③：企画、立案、方針策定を行う場
（生活支援・介護予防サービスの担い手養成に係る企画等を含む。）
- ④：地域づくりにおける意識の統一を図る場
- ⑤：情報交換の場、働きかけの場

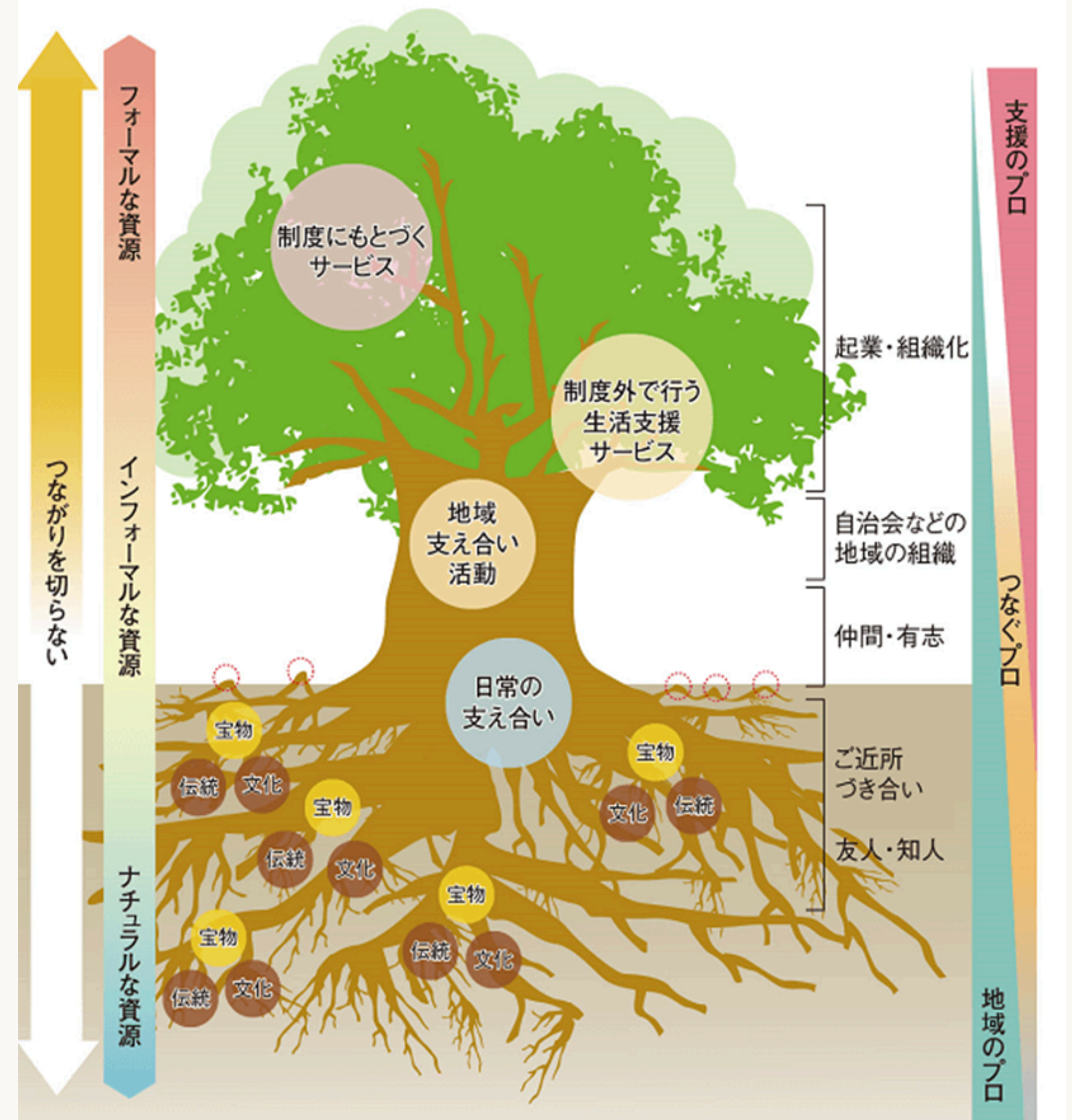
❖ ① 高齢者の支援ニーズ・関心事や地域住民を含む 多様な主体の活動の状況の情報収集及び可視化

(1) 地域アセスメント

“対話や共創”

住民のため住民が主役となった地域づくりの材料のため
地域の課題だけでなく、強みや良さにも目を向ける

枝葉を伸ばしながら
根っこも厚くしていく



❖ ① 高齢者の支援ニーズ・関心事や地域住民を含む 多様な主体の活動の状況の情報収集及び可視化

（２）数値で見える化

- ① 高齢者人口、要支援認定者等の推計
- ② 必要な生活支援サービス・活動数、担い手数の推計
- ③ 介護保険料、費用抑制効果の推計

（３）広報で見える化

地域アセスメントで整理した情報を可視化

⇒ 地域住民の身近な問題として、自分事に捉えて貰えるように

⇒ 一緒に考えてくれる人を掘り起こす。



❖ ② 地域住民や多様な主体による生活支援・介護予防サービスの企画・立案、実施方法の検討に係る支援



関係する会議に参加



地縁組織のキーパーソンへ
働きかける

そもそも協議体自体が地域のネットワーク

③地域住民・多様な主体・市町村の役割の整理、 実施目的の共有のための支援

進め方	ボトムアップ手法（住民主導）	トップダウン手法（行政主導）
解釈	住民の自発的な互助の活動を、 行政がサービスと連動させる	行政の計画するサービスに向け、 行政の互助の活動を促す
長所	地域性のある住民主体の取り組み 継続性がある自発的な活動	効率が良い、計画性がある
短所	効率が悪い、計画性がない	・ 予算に基づく行政主導の取り組み ・ 予算が確保できなければ継続が 難しい、住民が受け身の活動

❖ ④生活支援・介護予防サービスの担い手（ボランティア等を含む。）の養成、組織化、具体的な活動とのマッチング

大切なポイント

自分ごとに捉えてもらう

地域住民や関係者の
疑問に答えられる

個々の参加意欲に応じた
アプローチを行う

住民ができる取り組み

協議体の構成員＝支え手
としないこと

小さな活動からでいい

新たな支え合いの
立ち上げ支援

支え手養成研修の開催

❖ ⑤ 支援ニーズと生活支援・介護予防サービスとの マッチング

（１）潜在化したニーズを発見する

- ・ 潜在化したニーズを発見するためには、協議体への情報の持ち寄りや勉強会や座談会といった場を通じて、住民の声をしっかり聞き入れる。
- ・ 地域に点在している潜在的ニーズを表面化させていく。

（２）ニーズと支援のマッチング

- ・ 人と支援だけでなく、人と人、人と場、情報、思いといった様々なものをつなぐのが生活支援コーディネーターの役割。
- ・ 支援を必要とする人と、周囲の方々の関係性が作られることは、孤独や孤立を防ぐことに繋がる。（専門職の支援とはまた異なる）

✖ 支え手を増やす3ステップ



地域の情報共有（茶話会）

協議体構成員が地域の情報を話し合い、共有する。
行政批判を始める人は事業の理解が足りていないため、SCが軌道修正をします。



アイデア出し（ブレインストーミング会議）

色々出てきた情報の中で、取組やすい課題を見つけたり、広げたい活動を見つけたりとアイデアを出していきます。
視点を変えて今まで探していないところを探してみてもいいかもしれません。



作戦会議・実践

地域への働きかけの戦略検討と実践を行います。
試行錯誤を繰り返し、協力してくれる人が出てくれば、それが支え手であり、資源の開発になっていきます。

✖ 小さく始めて つながりを広げる ～独居男性の居場所づくりの例～

地域の声

地域の声・困り事を
集める

独居男性の
集まる場が
少ないなあ



アイディア

できそうなことを
みんなで考える

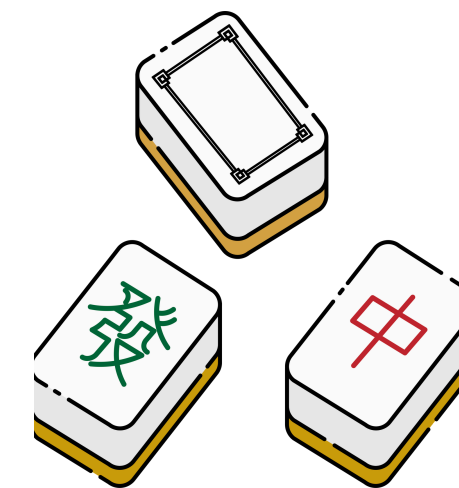


健康麻雀！
公民館でできる？
まず月1回で！



小さく始める

月1回からなど
やれることから
実践してみる



情報収集・繋ぐ

実際にやっている
市町村担当者に聞いたり
人を繋げる

健康麻雀
やってますか？
教えて！



❖ 生活支援体制整備事業のゴールは？

“「これが出来たら終わり」という
ゴールはありません”

「目指す地域像」に向けた

「情報共有の継続」と「できること探し（協働）」が大きな目標。

大きい目標に向けて短期目標を一つずつ達成していく成功体験が重要

協議体を活性化するためには

❖ 協議体は何をするのか

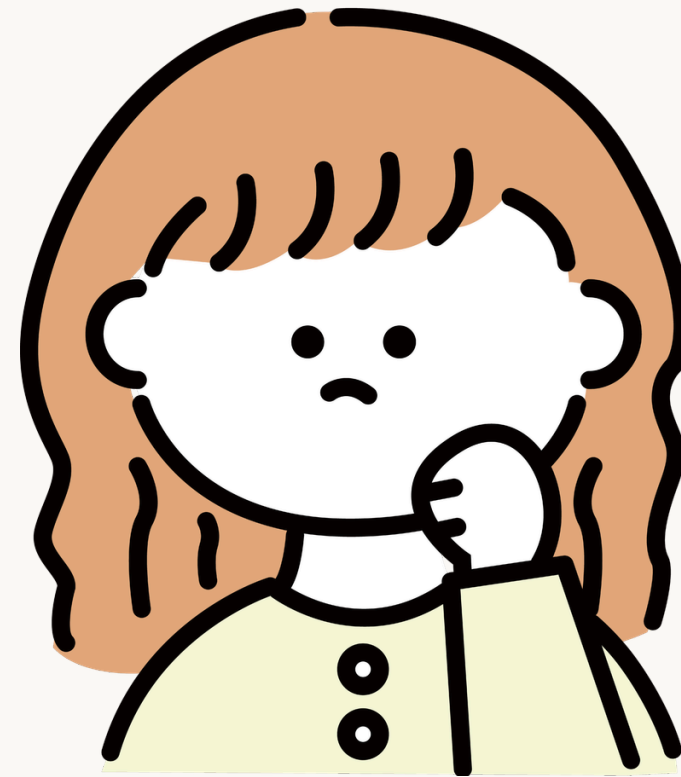
5W1H式

- 01 なぜ 超高齢社会（元気な高齢者も増える）を迎えるため
- 02 誰が 協議体のメンバー（多様な主体）が中心となり
- 03 何を 地域の支え合い（互助）を
- 04 どうする 推進する（広げていく）
- 05 いつ 無理のない範囲で定期的に継続しながら
- 06 どうやって やり方は決まっていない（それを話し合う）

❖ 協議体を進める前に

関係者間で
意識が共有
されているかな

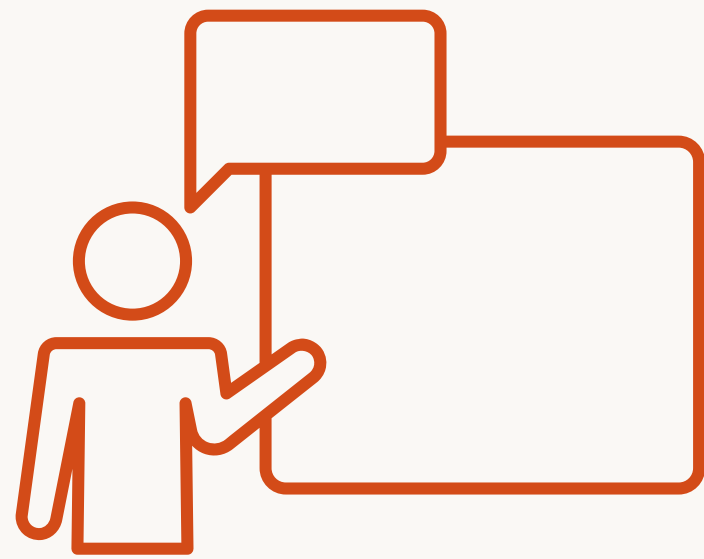
協議体はイメージが
できているかな



関係者同士で思いや目標、考え方等の共通認識を作ること
(規範的統合) が重要！

❖ 協議体を進める前に

生活支援コーディネーターも住民として関わる！



協議体の必要性を
住民に説明できる



既存地縁組織との
関係性を説明できる



自分ごととして
語りましょう

❖ 説明するときの大切なポイント①

住民へ対する説明

相手のペースに合わせて
ゆっくりと話す

相手の主張には
傾聴を心がける

専門用語を
できるだけ使わない

相手が期待していることを
理解しながら話す

「相手の心」を動かせるか
考えて話す

主語を「住民」にする

世間話を重ね、
円滑な関係作りに繋げる

❖ 説明するときの大切なポイント②

説明会や講話において

自分の体験談から相手が
共感し理解できるよう話す

ストーリーを組み立てる

参加者を巻き込む工夫をする

資料は「見やすく」「伝わりやすく」
「文字は少なく、大きく」

✖ 協議体活動のポイント



住民目線

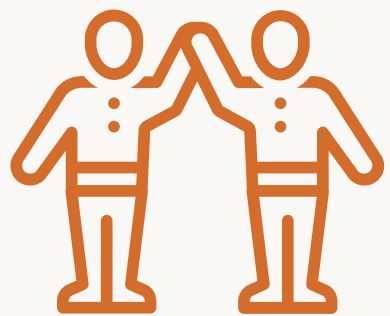
住民の目線で共に考え、共に決めていく。



できそうなことから検討する

総合事業のサービスを創り出すことだけにこだわらない。

住民だけでできることや、ボランティアの仲間でもできることもある



仲間を増やす

協議体のメンバーの他にも、助け合いを一緒に作っていこう、

やっていこうと考えてくれる人を見つけ、輪を広げる。

❖ 協議体活動のポイント

社会参加、介護予防の視点



元気な高齢者を中心とした人達が、助け合いの活動等に参加することで元気でい続けられるという、プラスの発想。

5年先、10年先を考える



今は大丈夫…、今は何とかなっているから…ではなく、
5年後どうなっているか、10年後どうなっているとよいかを考える。

❧ 協議体が活性化するための工夫

- ✔ **協議体に愛称をつけてみる**
 - ・何を話し合う場なのか、他の会議等と差別化を図る
 - ・協議体メンバーと思いを共有するためにも
- ✔ **協議体のとき以外にも日頃から協議体メンバーと連携する**
 - ・S Cが地域に入りやすくなるようにサポートしてもらう
- ✔ **会議中心でマンネリ化した場にならないように工夫する**
 - ・協議体メンバーとともに他市町村を視察してみる
 - ・場所を変えて協議体を開催してみる
- ✔ **部会や細分化した話し合いの設置も検討してみる**
 - ・実働的に動けるメンバーの部会を設置することで
具体的な取組みに繋がる可能性がある

❖ 地域づくりの原点

小さな一歩から

繋がりを広げていく

一人で抱え込まず、相談しながら進めていきましょう

～「俺が」ではなく「おかげ」の気持ちを大切に～



Thank You!

ご清聴ありがとうございました

